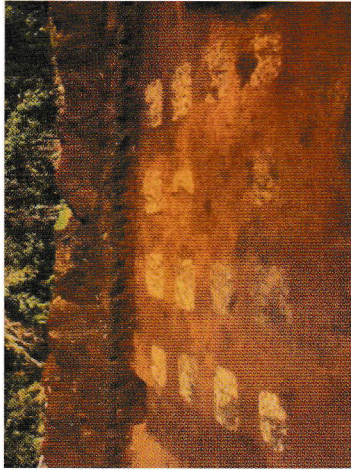


# 史跡・年表

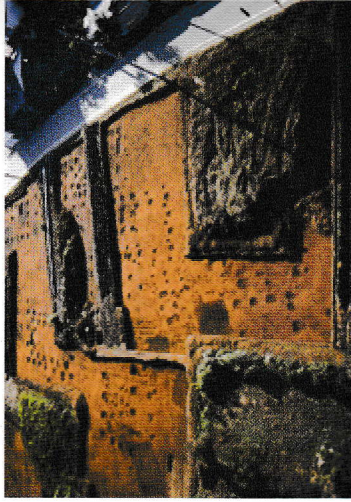
貝塚や古墳、官衙遺跡があり、古くから政治・文化の中心でした。

## 国指定史跡金田官衙遺跡

古代の「正倉」（米の倉庫）、「寺院」の他、「政庁」（役所）・「館」（宿泊施設）・「厨屋」（食堂）など河内郡衙の諸施設跡がそろっていると推測され、歴史的に高い価値があります。今は全て埋め戻されています。



総柱の跡は正倉（桜中学校付近）  
周囲は大溝に囲まれています



郡庁・館・厨屋を含むと推定  
される建物群跡

提供：(公)茨城県教育財団

「桜村史年表より」  
青字は「桜村の昔はなし」（伝承）より

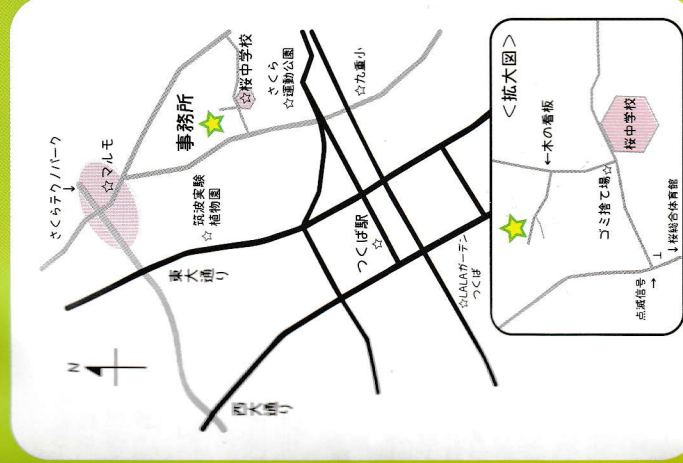
6千年前	縄文海進
3千年前	上境旭台貝塚
	水田耕作
6世紀	金田古墳
	舟つなぎ石
8世紀	常陸国風土記
	金田糸里
	九重東岡廃寺
	金田官衙遺跡
10世紀	平将門の乱
	長者屋敷の焼米
15～16世紀	金田城
	強清水の湧水
16世紀	小田氏滅亡

【注意とやっではないけないこと】

- ・樹林山道は、市道と私有地が混在しています。
- ・生き物の繁殖期（2～8月）は子育ての大切な時期です。樹林内に入らないようにしましょう。
- ・マムシやスズメバチが潜み、崖もあるなど思わぬ危険があります。
- ・落し物をしないようにしましょう。
- ・外来種の種を持ち込まないように、樹林内に入る時には、靴の衣服・靴の裏をよくはらいましょう。（NPO法人 金田台の生態系を守る会）

# 金田台ガイド・マップ

つくば駅から東へ4 km、金田台の森があります。筑波台地の縁にあり、花室川と桜川に挟まれた台地では人と生き物の営みが繰り返され、流れる湧水が生き物を育み、多くの史跡と豊かな自然が残っています。



## NPO法人 金田台の生態系を守る会

住所：〒305-0018  
つくば市金田 1338-2  
連絡先：090-3476-7814  
HP：http://kondadaiseitaikei.com  
Facebook：金田台の生態系を守る会  
メール：info@kondadaiseitaikei.com

### 行き方

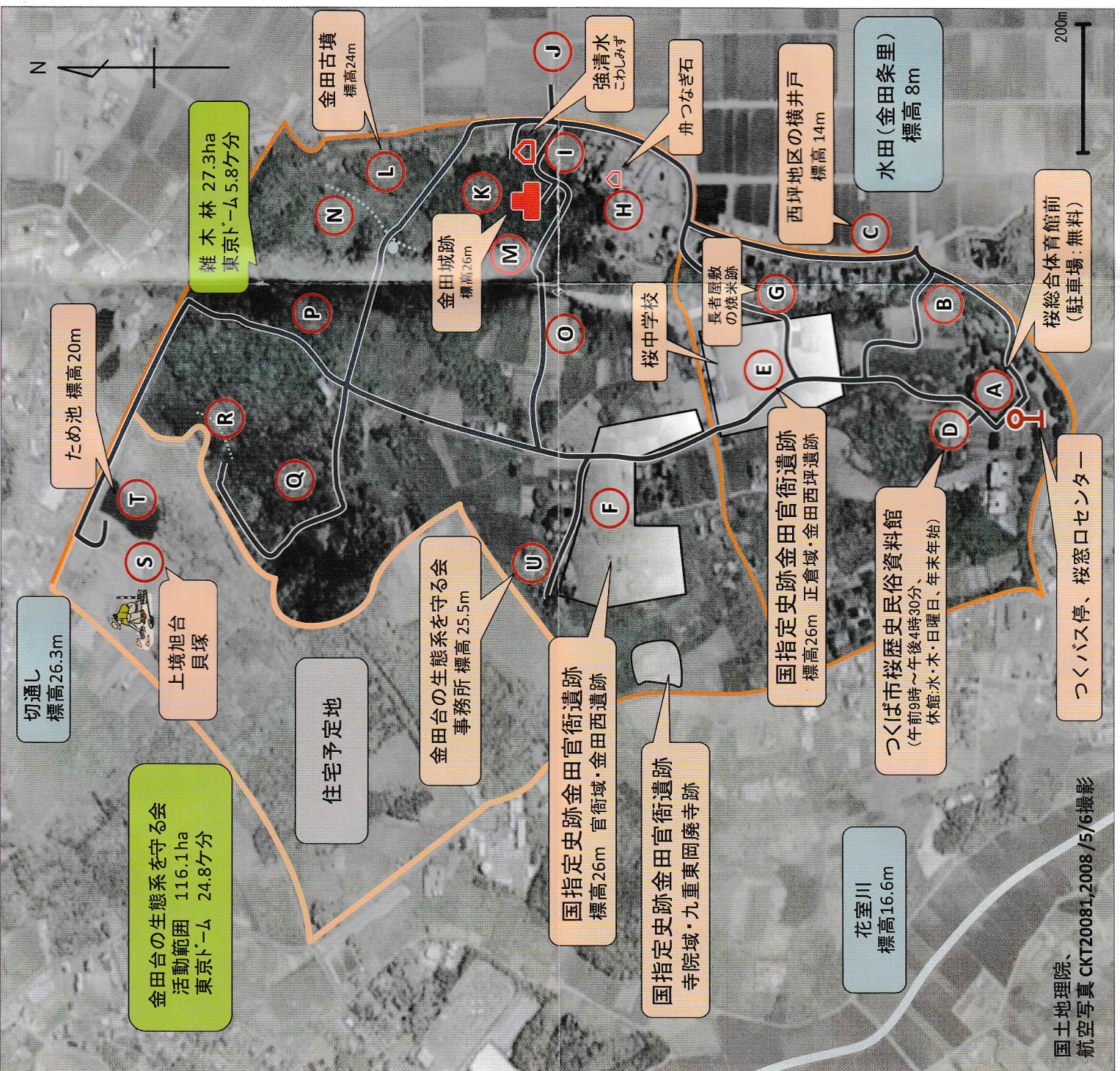
- ① TXつくば駅から徒歩40分
- ② つくバス、TXつくば駅バスター ミナル 3番乗場「小田シヤトル」乗車10分「桜窓ロゼンター」で下車  
常磐高速道「土浦北IC」で下車、5 Kmほどで桜総合体育館前の駐車場（無料）を利用します
- ③

## SAVE JAPANプロジェクト

47都道府県のNPOと地域の皆さま、関係者、ボランティア、日本興亜と一緒に、全国各地の「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクトです。日本NPOセンターと協働で、市民参加型の体験イベントを開催します。参加費の案内や、開催報告など随時専用サイトに掲載。地域みんなで参加できるイベントを目指します。（http://savejapan-pj.net/）

(※) 損保ジャパン日本興亜の自動車保険のお客さまにご契約時、「Web 証券」や「Web 約款」を選択いただいた場合や自動車事故の修理時にリサイクル部品などを活用いただくことにより、環境NPOなどへ寄付を行います。

記	名称	みどころ
A	桜総合体育館	集合場所、金田台地の高さを実感できます
B	金田台の地層	洪積層・関東ローム層等の露頭がみられます
C	西坪の横井戸	今も利用されている珍しい横井戸と金田の水田地帯が一望できます
D	つくば市歴史民俗資料館	ナウマンゾウ化石や旧石器時代からの人類の営み、桜村の生活史がわかります (休館日：毎週水・木・日曜日、年末年始12/28～1/04)
E	金田官衙遺跡(金田西坪遺跡)	奈良から平安時代に栄えた河内郡衙の正倉院跡(国指定史跡金田官衙遺跡の一部)
F	金田官衙遺跡(金田西遺跡)	郡衙の政庁や館・厨屋跡地と考えられる官衙域、大きさと広さを実感できます (国指定史跡金田官衙遺跡の一部)
G	桜中学校庭の南東隅	平将門に焼かれた長者屋敷跡、焼けた黒い焼みや麦つぶが見つかるとか！
H	舟つなぎ石	縄文時代前の海はここまで来ていたのか？
I	強清水(こわしみず)	森林の恵みの湧水で休息ができる場所。金田の水田地帯の源にもなっています
J	清流いきもの	強清水の清流で、貴重なカワニナ・タニシ・クナシボシ(魚)などが育っています
K	金田城跡	鎌倉から戦国時代の小田城の出城の一つ、今も堀の跡がみられます
L	金田古墳	古墳時代の円墳が残る高台からは金田条里が一望できたと想像しながら絶景地で休息
M	森林の草花	起伏のある廻り跡には豊かな森が広がり、ウワズミ・ザクラ、ハリギリ等の植物が多くみられます
N	湧水いきもの	金田台地からの湧水が清流になり、ヤゴ・マジジミなどのいきものがみられます
O	鳥の観察地	金田の森が一望でき、木々の上にはサンバ・ノスリなどの野鳥がよく観察できます
P	森林とシダ群落	森林のあたたかさ、土のふわふわ感を肌で体感、平地林では珍しいシダ群落がみられます
Q	森林と草花	森の香り、土の感触・多くの木々・草花の観察地です
R	谷津田の跡と湧水	谷津田跡や湧水のいきものたちがみられます
S	上境旭台貝塚	古代人が食した貝塚跡、縄文土器の破片もみつけられます
T	ため池と鳥	上高地の様な立枯れた木々に魚を狙うアオサギ・カワセミなどの野鳥を観察できます
U	NPO法人 金田台の生態系を守る会 事務所	桑の木やモグラ塚で囲まれた畑で無農薬野菜をつくっています



# オオタカとサシバのいる意味

生物多様性という言葉を知っていますか。生物多様性とはただ生物の種類が多い(種の多様性)というだけではありません。たくさんの種が生活するために、いろいろな生息環境(生態系の多様性)や繁殖するための個体数(遺伝子の多様性)が必要です。出会いの機会が多ければ遺伝子の組み合わせが複雑になり、種が生き延びるチャンスが増えるからです。

オオタカやサシバなどの猛禽類(もうさんない:タカ類やフクロウ類など)が生息・繁殖することから、金田台には豊かな自然環境が残されていることがわかります。自然が豊かな街に暮らす皆さんは、無償で自然の恵み一生懸命にサービスを受けているのです



サシバ 撮影:海老原 信一氏

(供給的サービス:食物、飲料水、薬品など、調節的サービス:大気、水質、土壌など、文化的サービス:審美的価値、環境教育など、基盤的サービス:物質循環、光合成、生物多様性など)。

オオタカやサシバは里山の猛禽類です。生活のためには、里山のモザイク構造を構成するまとまった雑木林、畑、田んぼが必要です。オオタカ(大鷹ではなく蒼鷹:成鳥は胸が白く、翼が蒼い)は、多くの地域では留鳥です。オオメスともハトがごちそうですが、オスは繁殖期には営巣場所近くの林縁や周辺の田畑、草地でスズメや他の小鳥を捕まえ、メスやヒナにせっせと運びます。また、エサの少ない冬には、オスは繁殖なわばりを含めた広い行動圏で生き残るためのエサ探しと捕獲をします。メスも同様です。身体の大きなメスは、冬はハトだけではなく、カモやカラス、サギなどを捕獲します。冬を越し、オスもメスも翌年の春に再び繁殖す



オオタカの親子 撮影:明日香 治彦氏

ることは大変なことなのです。

サシバは留鳥ではありません。夏鳥です。繁殖のために春に南から渡って来て繁殖をし、秋になるとまた南に移動します。サシバのおもな工事は、ヘビやカエル、トカゲなどです。谷戸の田畑や草地に隣接した雑木林に営巣し、産卵、抱卵、孵化、育雛を経てヒナを巣立たせます。生態系の頂点に立つ、オオタカやサシバの地域で繁殖しているというのは、街の誇りです。目先の利益を求めめるのではなく、次世代やその次の世代のために、豊かな緑や田畑を守り残すのが、私たちの大きな役割です。

早稲田大学理工学部創造理工学部講師  
同大学鳥類個体群保全研究PJ 大堀 聡 先生

# 野鳥と昆虫



サンコウチョウ



アマガエル



アカガエル



アカスジカメムシ



カワセミ



アマガエル

野鳥撮影:海老原 信一氏 昆虫撮影:高橋

# 植物

古くから伝わる植物がたくさん残っています

開花時期

3月 4月 5月

6月 7月 8月



シユンラン

古くからジジバまたは木クロなどと呼ばれ親しまれてきた。花期は3月から4月で、春の訪れを知らせてくれる。



ウミズザクラ

材の上面に溝を掘って占いに使ったのが名前(上溝桜)の由来という。夏に熟す実を使った果実酒がおいしい。



サンシヨウ

さまざまな和食の香りづけに用いられ、日本人の食生活となじみ深い。9月から10月頃に赤い果実をつける。



キンラン

里山の雑木林内に生え、4月から6月に黄色い花をつける。菌根菌との関係が強いので、移植は大変難しい。



フジ

花の美しさは古くから多くの和歌に詠まれている。花期は5月で、付け根から先端に向かって順番に咲いていく。



ヤマツツジ

山でなくとも松林や雑木林でよく見られた。花期は4月から6月で、1個の身から2~3個の赤い花を咲かせる。



チゴユリ

花期に茎の先端につける一輪の花が小さくて可愛らしいことから稚児ユリと名付けられた。花期は4月から6月。



ノイバラ

茨城の県名の由来となった山野に自生するバラの仲間。花期は5月から6月で、たくさんの白い花を咲かせる。



カラタチバナ

同じ仲間のマンリヨウ(万両)に対してヒヤクリヨウ(百両)とよばれ、縁起の良い植物とされてきた。



ガガイモ

古事記に登場し、小さな神スクナビコナは舟型の実に乗って来る。秋に実をつけ、種には絹糸のような毛がある。



マンリヨウ

冬に赤い実をつけるので正月飾りに使われた。葉は肉厚で、葉の縁が波状になる。花期は7月から8月。



アカネ

赤色の根は草木染に利用され、その色を茜色とよんでいた。4輪生のハート型の葉と四角い刺のある茎が特徴。

# 水辺の生き物

金田の森は数十年間殆ど人の手が入らない状態にあり、起伏はそれほど大きくはないが、低地部分は湿地となっており、この地方の潜在植生である常緑広葉樹林の原生林状態となっている。西側湿地周辺の林内に陽射しは届かず薄暗い。大きな流れや池は見られず広い範囲で低湿地帯となり、落ち葉が厚く積ちている。東側湿地の落ち葉の下にはマシジミ（近年外来性タイワシジミなど侵入しており、国産のマシジミかどうか明らかでない）やオニヤンマのヤゴが高密度で観察される。オニヤンマは産卵されてから親になるまで数年必要であり、この底生湿地が長期間乾燥していないことを明らかにしている。林の出口付近では浅くゆるやかな流れが形成されており、

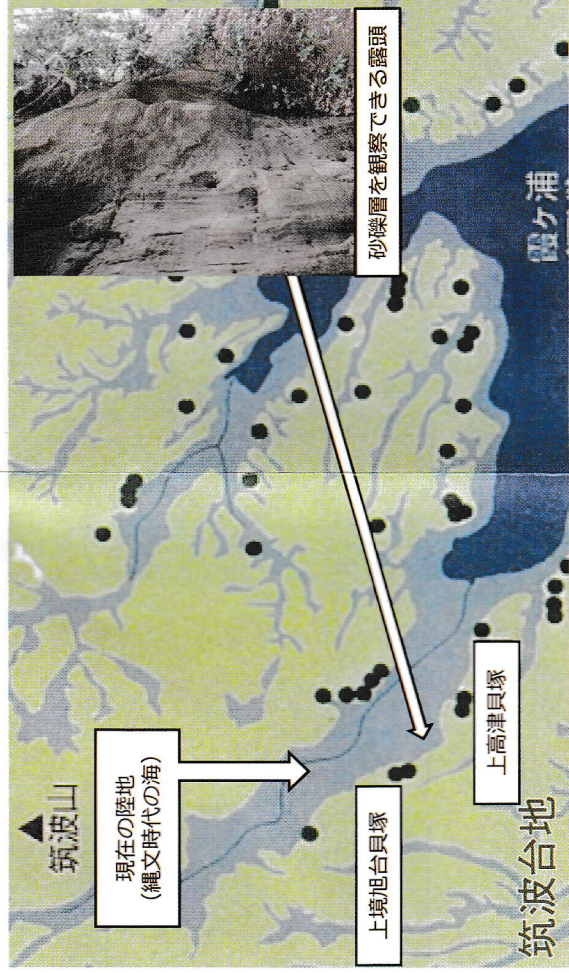
小石や砂の下にはガガンボ、ユスリカ、カゲロウ、トビケラなど昆虫幼虫が見られ、羽化した成虫は小鳥やオニヤンマなどの餌となっている。この湿地は落ち葉を出発点とした食物連鎖を通し、オオタカやサシバを頂点とする林の生態系を形成している。森から水田域に流れ出た小川には小型の魚類やカワニナなど観察されるが、水田域では生物が急に見られたため池、水路、流域にはかつて見られたため池、水路、水田など、人工的に管理された里山の構成要素を作り、市民による管理が行われることにより、さらに多様な生態系が作られ、環境教育の場となり、皆で楽しむことができるだろう。

元国立環境研究所 湖沼生態学 春日 清一 先生

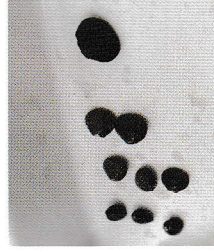
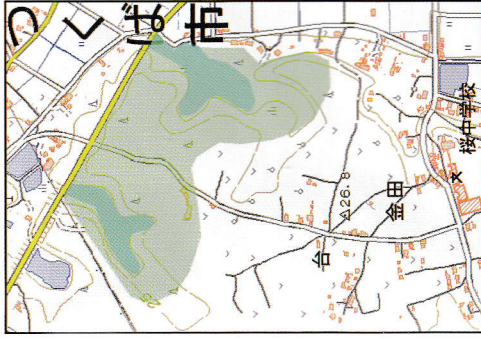
# 地質

古東京湾の時代（約12万年前）から、徐々に海退が進んでいく約10万年前頃に、現在のつくば市付近にはかつての鬼怒川が三角州をつくりながら流れ込んでいました。金田台の露頭では**安山岩**の礫が見られます（写真）。筑波山からは安山岩のような火山岩は産出しないので、日光火山から鬼怒川が運んだと推定されています。

その後、氷河期に海面が低下し、侵食が進んだことにより**筑波台地**が形成されました。温暖な縄文時代に右図のように海面が上昇し、台地の端に貝塚がつくられました。



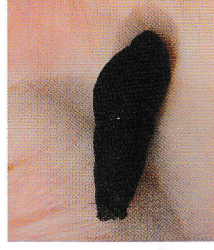
縄文時代の海の様子と貝塚分布図（環境科学センターの学習シート「霞ヶ浦周辺の貝塚」より）



マシジミ



オニヤンマのヤゴ



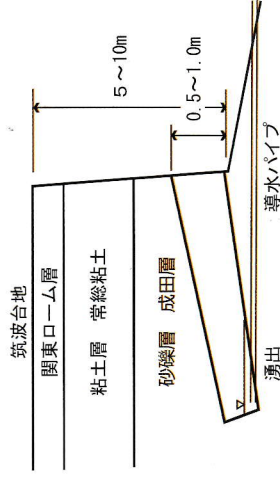
カワニナ



サワガニ

10万年前は鬼怒川の流れがおだやかであったため、泥がちの地層が堆積し、**常総粘土層**とよばれています。このような粘土層の下の砂礫層に**地下水**があり、人々は横井戸をつくって利用してきました。

## 金田の横井戸



岩間（1997年）に筑波大学名誉教授 田瀬 則雄 先生 加筆